

事業コード	H20-農-継-4		区 分	国庫補助 県単独
事業名	治山事業(地すべり防止事業)		部局課室名	農林水産部 森林整備課
事業種別	補助事業(治山事業)		班 名	治山林道班 (tel) 018-860-1943
路線名等	陣場		担当課長名	森林整備課長 沓沢 了介
箇所名	北秋田市阿仁打当字陣場		担当者名	今川 順
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	03	施策名	災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実
	指標コード	04	施策目標(指標)名	保安林の整備面積

## 1. 事業の概要

事業期間	H15 ~ H23 (9年)	総事業費	3.9億円	国庫補助率	50%	
事業規模	集水井工 5基 ポーリング暗渠工 L=4,618m 溪間工(治山ダム工)1基					
事業の立案に至る背景	平成14年の豪雨時に市道打当野倉線が被災し、片側通行を余儀なくされ、調査結果から地すべり変動によるものと確認され、また、被災した市道に近接している熊牧場施設においても地すべりによる影響と思われる、湧水や亀裂などが発生していた。 観光施設である熊牧場の保全是もとより、地すべり活動により一級河川打当川が閉塞した場合には下流域に甚大な被害を及ぼす恐れがあるため、地すべり防止工事を実施したものである。					
事業目的	地すべり区域下流域を保全するため、地すべり防止対策工事を実施する。 人家 20戸 鉄道 300m 道路 3,150m 田畑 25.2ha 一級河川 打当川 熊牧場 (平成16年2月3日に地すべり防止区域(A=173.95ha)に指定)					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等	
	事業費	666,000	386,763	-279,237	調査解析の結果	
	経費内訳	工事費	497,184	255,650	-241,534	
		用補費	0	0	0	
		その他	168,816	131,113	-37,703	
	財源内訳	国庫補助	333,000	193,381	-139,619	
		県債	299,000	174,000	-125,000	
その他		0	0	0		
一般財源	34,000	19,382	-14,618			
事業内容	集水井工5基 ポーリング暗渠工 L=7,600m アンカー工60孔	集水井工5基 ポーリング暗渠工 L=4,168m	ポーリング暗渠工 L=3,432m アンカー工60孔	調査解析の結果、ポーリング暗渠工及びアンカー工を減とする。		
事業の進捗状況	平成19年度末投資事業費 289百万円(75%) 集水井工 N=4基 ポーリング暗渠工 L=2,718m 溪間工 N=1基					
事業推進上の課題	なし					
関連する計画等	なし					
情勢の変化及び長期継続の理由	人家や県道等の保全対象のほか、当該地区は北秋田市の重要な観光拠点となっていることから、対策事業の要望は強い。 地すべり防止工事の効果判定調査を行いながらの対策工事であることから、事業期間を要している。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	保安林の累積整備面積				
	指標式	整備面積累計				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	9,462 ha		データ等の出典	保安林整備面積調査	
	実績値 b	10,198 ha				
達成率 b/a	107.8 %		把握の時期	平成20年3月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	なし
	指摘事項への対応
	なし

## 2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	人家や鉄道・道路等を地すべり災害から保全するため、地すべり防止工事が求められているところであり、事業の必要性が認められる。	15 点
緊 急 性	これまでの対策工事により、Aブロックの地すべり活動は小康状態となっているが、Cブロックでは融雪期や豪雨時の地下水位上昇にともなって断続的に変動しており、早急に対策工事を行う必要がある。	11 点
有 効 性	事業実施による地すべり活動の安定化により、災害の防止が図られることから、県の施策である「災害に強い県土づくり」実現のため、有効性が認められる。	10 点
効 率 性	費用対効果分析を実施した結果、費用以上の効果が認められる。 総費用(C) 420百万円 総便益(B) 875百万円 分析結果(B/C) 2.08 調査結果に基づき、効果的な地下水排除工の施設配置を実施することでコスト縮減を図っている。	20 点
熟 度	市からの事業施行申請地であり、事業に対する地域の合意形成は図られている。対策区域内に観光施設があることから、地域住民、勤務している職員、市等の関係者を対象に説明会を開催している。地すべり工事にあたっては、周辺の景観と融合するよう木製部材を使用するなど検討している。	25 点
判 定	ランク ( ) すべての観点において評価点が高く、住民の安全・安心な暮らしを実現する上でも優先度の高い事業箇所であり、継続して実施すべきと考える。	81 点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 各観点の評価結果から、事業実施箇所として優先度は高く、事業は継続して実施すべきと考える。	

## 3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

計画どおりの完成を目指し事業を実施するとともに、引き続きコスト縮減に留意する。
---

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。
--------------

評価種別 継続箇所評価  
適用基準名 地すべり防止事業

事業コード (H20-農-継-4 )  
箇所名 (北秋田市阿仁打当字陣場 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	事業の必要性					
	計画・政策・施策における位置付け	施策目標の中核事業であり貢献度が高い 施策目標に間接的に貢献する 施策目標とは別のその他関連事業である	10 5 1	10		
	県民のニーズ	該当施策の優先課題としての支持率が非常に高い 該当施策の優先課題としての支持率が非常に高い 該当施策の優先課題としての支持率があまり高くはない	5 3 1	5		
	計		15	15		
	緊急性	災害発生の危険度				
緊急性	災害発生の危険度	災害の発生により人命に危険がある 災害の発生による人命への影響はほとんど無い	5 1	5		
	地すべり兆候	全体的に変状が認められる 部分的に変状が認められる 緊急ではないが将来的に必要	10 5 1	5		
	他事業との関連					
	他事業との関連	他事業が関連し、緊急性が高い 今後他事業計画があり緊急性はある 他事業計画は未定である	5 3 1	1		
	計		20	11		
有効性	当初計画からの具体的効果					
有効性	目標安全率の達成率	目標の100%以上 90%?100%未満 90%未満	10 5 1	5		
	地下水位低下状況	100%以上 80%?100%未満 80%未満	10 5 1	5		
	計		20	10		
	効率性	事業の投資効果				
	効率性	費用対効果	B/C = 2.0以上 B/C = 1.0以上?2.0未満 B/C = 1.0未満	10 5 0	10	
コスト縮減の検討						
コスト縮減計画		具体的に検討または実施している 検討を予定している 検討していない	10 5 0	10		
計			20	20		
熟度		事業実施体制				
熟度	地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている 意向が強く要件の同意を概ね得ている 要件の同意を得ていない、または、調整中	5 3 1	5		
	これまでの進捗状況					
	前年度までの進捗比	計画より進捗している 概ね計画どおりである 計画より遅れている	5 3 1	5		
	今後の進捗見込み	課題は解決済みで順調な進捗が見込まれる 将来的な課題はあるが、当面進捗に影響は無い 課題は解決の見込みが無く、事業の停滞が予想される	5 3 1	5		
	他官庁との協議調整					
	基本合意の有無	協議・調整済みで事業推進に影響は無い 協議・調整中であるが事業推進に影響は無い 協議・調整中で事業推進に影響する	5 3 0	5		
	環境との調和への配慮状況					
	環境保全への配慮	十分に配慮されている 配慮について検討している 特に配慮はない	5 3 0	5		
	計		25	25		
	合計			100	81	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上 ~ 80点未満		
	優先度が低い	60点未満		